

早稲田大学 国際教養学部 世界史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	大問4の構成は例年通り。設問数は昨年44問から47問へと3問増加した。マーク式が35問、記述式は12問だった。今年は記述問題が登場。昨年は消滅した地図問題が復活して2問出題された。難易度は昨年とほぼ同様。現代史に難問が目立つ。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	交易活動の視点から見た世界	問1の空欄補充、問2の時代配列は易しい。問3ーイのササン朝のシリア領有は消去法で対処できる。問4の選択肢は国名と旧宗主国の関係はすべて正しいので、キルワが現在どこの領土かが判定基準のすべてである。スワヒリ関係の教科書地図から判断すると、ケニアかタンザニアかの区別は難しい。普段から、歴史的場所が現在のどこの国にあるか調べる習慣が求められる。問6のアラブ人固有の学問に「哲学」が入らないというのは正誤判定の頻出項目。問7のイブン＝バットゥータが中国でいうと元代の人というのも頻出。問8の『諸国民の富』の空欄補充ウのa「重商」は簡単だが、bの「通商」は文脈から類推するしかない。	一部難
II	石油関係史	問1ーウ、タイは太平洋戦争中日本と軍事同盟を結んでいた。日本軍は自由に通過できたが、占領ではない。問2ーエは「ギリシア＝トルコ戦争の勃発を口実に」がどこにかかるのか文章構成があいまいだが、いずれにしても誤りには違いない。問3の地図はやたらに都市がしめされているが、バグダードとベルリンを探すだけで実は簡単。問5ーイのサウジの首都はリヤドが正しい。問6ーウは、安保理は対イラク武力行使容認決議を行っている。米国主導の多国籍軍は国連軍ではないが国連決議の実効性確保を目的に編成された。問7はイとウの両方とも間違っている。イについては「巨富」は得ていない。ウについては、バグダード条約機構加盟は1955年でモサデグ失脚(1953年)のあとの出来事である。	標準
III	フランス革命とナポレオン	空欄補充は比較的易しいが、正誤判定の判定部分はかなり細かい。問2ーウの印紙法撤廃は翌年の出来事。問5のエは消去法で選ぶ。問6ーアの『哲学書簡』では英の制度の長所を強調している。問7ーイは、ラ＝ファイエットは第二身分代表というのが正しいが、消去法で正答できる。問9ーイの「私有財産の不可侵」は「人権宣言」第17条の内容。	一部難

番号	出題内容	コメント	難易度
IV	第二次大戦終結前後の世界と冷戦	問2ーイの世界人権宣言は1948年12月が正しい。問3ーエのオーストリアは分割占領された。問4ーウの「鉄のカーテン演説」はミズーリ州フルトン市で行われた。問5ーアのコメコンの6カ国とはソ連・ポーランド・チェコスロヴァキア・ハンガリー・ルーマニア・ブルガリア。問6ーウは少人数のユダヤに有利にとりはかられたが正しい。問8ーエは「米ソ関係はさらに悪化」が間違い。問10ーエの独立国家共同体の11共和国にはグルジアは入らない(1993年に加盟して加盟国は計12となった)。1989年の東欧革命関連は昨年に引き続き連続して出題された。	難

〔総合コメント〕

昨年度から登場した記述式問題は今年も基礎的内容が大半だった。ここでしっかり得点をかせぎたい。正誤判定は、細かい歴史事象が判定のポイントになっているものが目立つ。ただ、消去法による正解も可能な場合が多いのであきらめないで挑戦してもらいたい。消去で残った文章に不明の点があっても不安がらずに選択した方がいい。今年も昨年見られたような扱いにくい年代配列問題はなかったが、このまま来年も出ないかどうかはわからない。昨年の問題も参考にして十分対策をとってもらいたい。今年目立った難問は、現代の国際的組織の加盟国に関する問題だった。コメコン創設時の6カ国、独立国家共同体の創設時の11国、イランのバグダード条約機構(中東条約機構)加盟のタイミング、基本的で簡単だったが、ANZUS加盟国やアラブ連合の加盟国も同種の問題である。また、湾岸戦争と国連決議の関係なども政経では神経質に取り扱うが、世界史では雑な解釈ですませる傾向が見られ、盲点となりやすい。第二次世界大戦後の国際機関の構成員を細かくおさえておきたい。また、国際連合と国際紛争のかかわりは国連平和維持活動も含めて掘り下げて学習しておきたい。この分野に限っては政経の資料集を参考にするのもよいだろう。